

厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業)  
神経変性疾患領域の基盤的調査研究 分担研究報告書

脊髄髄膜瘤のレセプトデータからみた移行期医療の問題

研究分担者：埜中正博  
関西医科大学大学脳神経外科

**研究要旨**

レセプトデータより脊髄髄膜瘤患者のおかれている現状を手術の種類と回数、投薬の種類により明らかにした。

**A. 研究目的**

本邦における脊髄髄膜瘤治療の脳神経外科治療の現状を調査するために、株式会社日本医療データセンター (JMDC) から提供された診療レセプトデータを解析した。

**B. 研究方法**

JMDC から提供された 2005 年 1 月から 2020 年 3 月までの脊髄髄膜瘤という病名をもつ患者 556 名の日本のレセプトデータを調べ、脳神経外科領域の手術を含む手術数手術の種類と手術時の年齢、投薬の種類と投与されているときの年齢について調査した。

**(倫理面への配慮)**

連結不可能匿名化されている情報であるが、関西医科大学倫理審査委員会にて研究計画が承認された (2021015)

**C. 研究結果**

556 名の患者のうち、レセプトの経過観察開始時の平均年齢は 14.2 歳、経過観察終了

時の平均年齢は 18.6 歳で、平均経過観察期間は 4.4 年であった。この期間に手術を実施された症例は 294 例で、合計 1033 回の手術が行われていた。この経過観察期間内に出生し、脊椎披裂手術を実施された症例は 56 例で、1 年あたり 12.7 名となっていた。診療科別では、脳神経外科が 313 例、整形外科が 279 例、皮膚科・形成外科 205 例、泌尿器科 69 例、その他 167 例となっていた。19 歳以上で手術を実施されていたのは 215 例(全体の 20.8%)で、脳神経外科 24 例 (7.7%)、整形外科 27 例(9.6%)、皮膚科・形成外科 77 例 (37.6%)、泌尿器科 21 例(30.4%)、その他 66 例(39.5%)であった。脳神経外科手術と手術時平均年齢は脊髄髄膜瘤修復術が 57 件、0 歳、脊髄係留解除術が 56 件、8.9 歳であった。シャント治療は 100 件、4.1 歳、髄液ドレナージ 49 件、4.8 歳、ETV18 件、7.5 歳となっていた。シャントを実施された例で、1 年後までシャント再建されることなく過ぎた例の割合 (シャント生存率) は 59% で、10 年後には 46%となっていた。シャント生存率に最も影響したのは 1 歳以下のときに再建されたシャントで、1 年間のシャント生存率が 30%にまで低下した ( $p < 0.01$ )。

脊髄手術においては、10年後まで脊髄係留解除術を実施されることなく経過した例は78%であった。鎮痛薬の定期内服割合は、0-9歳では定期内服している患者はいなかったが40~49歳では34.3%であり、年齢が上がるとともに多くなる傾向があった。また用いられる薬剤はNSAIDsが最多であった。抗てんかん薬については、40代までの患者で処方されており、内服患者の割合は0-9歳で12.2%、40~49歳で20%と年齢による変化はみられなかった。また、約半数で多剤併用されていた。向精神薬の内服患者の割合は、~9歳で2.4%、であったが、40~49歳で40%であり、年齢とともに内服患者の割合が増加する傾向にあった。生活習慣病治療薬については、年齢が上がるとともに内服患者の割合が増えており、日本の一般人口と比較してより若い時期に投薬を受けている割合が多い傾向があった。

#### D. 考察

脊髄髄膜瘤患者は成人してからも引き続き様々な症状が出現し、さまざまな外科的な治療を要することがうかがえた。脊髄髄膜瘤患者においては鎮痛剤と向精神薬は年齢が増加するに伴い投与される患者の割合が増加した。また生活習慣病についても、一般人口と比較し、より早期に増加する傾向を認めた。

#### E. 結論

脊髄髄膜瘤患者に対しては幼少期にとどまらず、成人してからも多くの手術、投薬が行われている実態が明らかになった。成人した症例を支援していく体制を作るのが重要であると考えられた。

#### F. 健康危険情報

#### G. 研究発表 (2020/4/1~2023/3/31 発表)

##### 1. 論文発表

1. Current status and challenges of neurosurgical procedures for patients with myelomeningocele in real-world Japan.

**Nonaka M**, Komori Y, Isozaki H, Ueno K, Kamei T, Takeda J, Nonaka Y, Yabe I, Zaitzu M, Nakashima K, Asai A. Childs Nerv Syst. 2022 Jul 30. doi: 10.1007/s00381-022-05613-5. Online ahead of print

2. Number of surgeries performed during the lifetime of patients with myelomeningocele.

**Nonaka M**, Isozaki H, Komori Y, Kamei T, Takeda J, Nonaka Y, Yabe I, Zaitzu M, Nakashima K, Asai A. J Neurosurg Pediatr 2022 Feb 18:1-9. doi: 10.3171/2021.12.PEDS21535. Online ahead of print

##### 2. 学会発表

第50回 日本小児神経外科学会

診療レセプトデータベースからみた日本における脊髄髄膜瘤治療の現状 (2022年6月、岐阜)

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

##### 1. 特許取得

○○○○○○○○○○○○○○○○

##### 2. 実用新案登録

○○○○○○○○○○○○○○○○

##### 3. その他

○○○○○○○○○○○○○○○○